

横浜市教育委員会
定例会会議録

- 1 日 時 令和元年7月8日（月）午前10時00分
- 2 場 所 教育委員会会議室
- 3 出席者 鯉渕教育長 大場委員 間野委員 宮内委員 中村委員 森委員
- 4 欠席者 なし
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

教 育 委 員 会 定 例 会 議 事 日 程

令和元年7月8日（月）午前10時00分

- 1 会議録の承認

- 2 一般報告・その他報告事項
福島県への教員派遣研修について
子どもアドベンチャー2019の実施について

- 3 審議案件
教委第11号議案 横浜市学校規模適正化等検討委員会委員の任命について

- 4 その他

鯉淵教育長

それでは、ただいまから、教育委員会定例会を開会いたします。

初めに、会議録の承認を行います。5月24日の会議録の署名者は中村委員と森委員です。会議録につきましては、既にお手元に送付してございますが、字句の訂正を除き、承認してよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

鯉淵教育長

それでは、承認いたします。字句の訂正がございましたら、後ほど事務局までお伝えください。

なお、6月21日の教育委員会定例会の会議録につきましては、準備中のため、次回以降に承認することといたします。

次に、議事日程に従い、教育次長から一般報告を行います。

小椋教育次長

【一般報告】

1 市会関係

教育次長の小椋です。それでは、報告いたします。

まず、市会関係ですが、前回の教育委員会定例会から本日までの間の報告事項はございません。

2 市教委関係

(1) 主な会議等

○6/24 スクールミーティング

○6/27 令和元年度 横浜市児童・生徒指導中央協議会

(2) 報告事項

○福島県への教員派遣研修について

○子どもアドベンチャー2019の実施について

次に、教育委員会関係の主な会議等ですが、6月24日に、教育委員が学校現場を訪問するスクールミーティングを実施いたしました。今回は、鯉淵教育長、間野委員、宮内委員、中村委員、森委員が旭区の旭中学校を訪問し、授業の視察等を行いました。また、当日は「横浜市学力・学習状況調査の分析を学校経営に生かす」「併設型小中学校の取組」「中学校での特別支援教育のあり方を探る」の3つのテーマについて、学校の取組の説明があり、意見交換を行いました。

6月27日には、令和元年度横浜市児童・生徒指導中央協議会が関内ホールで行われました。今年度は、「安心して失敗を語れる絆・居場所づくり」というテーマの下、協議会が行われ、本市の学校支援課題解決専門家として、インターネットに係る諸問題への御助言をいただいております宮崎豊久さんから御講演をいただきました。

次に、報告事項として、この後、所管課から2点、報告させていただきます。まず、1点目ですが、福島県への教員派遣研修について、次に、2点目ですが、子どもアドベンチャー2019の実施について、報告させていただきます。

私からの報告は以上です。

鯉淵教育長	<p>報告が終了いたしました。何か御質問等がございますか。</p> <p>特に御質問がなければ、福島県への教員派遣研修について、所管課から御報告いたします。</p>
古橋教職員人事部長	<p>教職員人事部長の古橋です。先月、6月28日に実施いたしました福島県への教員派遣研修について、御報告いたします。詳細は課長のほうから。</p>
山本教職員育成課長	<p>それでは、報告させていただきます。福島県への教員派遣研修については、今年度で3年目を迎え、全局で取り組んでおります。目的としては、被災地の人々の思いや取組から学ぶことを通して、被災を経験した子供たちに寄り添う心情を醸成するという、さらには放射線等に対する正しい理解を深めること、この2つを目的として行わせていただきました。</p> <p>6月28日金曜日、教員は77名、教育委員会事務局は18名、合計95名で行ってまいりました。派遣先としましては、1号車は、福島県富岡町立小中学校（富岡校）、特定廃棄物埋立処分施設、また特定廃棄物埋立情報館「リプルンふくしま」、この箇所について行ってまいりました。2号車は、福島県富岡町立小中学校（三春校）と福島県環境創造センターの2カ所に行ってまいりました。</p> <p>詳細については、1枚おめくりください。3ページです。まず、研修の様子として、1号車は、現地では富岡校の岩崎校長先生から、震災やその後の復興について具体的にお話を伺いました。中でも、福島県の教育の理念として、風評被害に悩んだ経験から、他者に科学的な根拠を基に情報発信できる力をつけるということや、多世代教育として、様々な職業、世代、その道のプロの方々から教育に参画してもらい、授業を進めている様子など、参加の教員の皆さんから深く印象に残ったという感想をいただいております。また、写真には特定廃棄物埋立処分施設を見学している写真も載せてあります。</p> <p>さらにめくっていただいて、4ページです。こちらは2号車の研修の様子について報告をまとめています。まず、三春校の渡邊校長先生や中田校長先生、藤井指導主事を囲んでの交流会では、さらに当時の様子や、教職員の深い思い、福島県の放射線教育の実際等についてお話を伺うことができました。また、福島県環境創造センターを見学して、リアルタイムで放射線量や福島第二原発の作業の様子が発信されていることに驚き、詳しい放射線の説明もあって正しい理解につながったと参加の皆さんからは御意見をいただいております。</p> <p>今後につきましては、研修で学んだことを通して、授業実践や教職員向けの研修、学校運営の改善等に生かしていくとともに、教育委員会としましても活用事例を集約して、他の学校でも生かせるようにしていきたいと思っております。以上で報告を終わりにしたいと思います。</p>
鯉淵教育長	<p>説明が終了しましたが、御質問等がございますか。</p>
森委員	<p>報告をありがとうございます。教員の方は77名が行かれたということですのでけれども、これは手挙げ方式でしょうかということが1つ目です。</p> <p>あと、比較的若手の先生が行っていらっしゃるのか、中堅どころなのか、どんな方々が行かれたのか、もし分かりましたら教えてください。</p>
山本教職員育成課長	<p>まず、参加者については、皆さんが主体的に参加したいと申し込まれた方たちになっております。一つは学校運営セミナーという研修に参加された方たちですが、今年度からは新任の主幹研修にも幅広く声をかけさせていただきました。そ</p>

ちらも主体的に参加したいと言われている方たちです。

そして内訳は、小学校が46名、中学校が24名、高等学校が4名、特別支援学校が3名ということで、幅広くいろいろな校種からも参加しております。

森委員

これまでも派遣されてきたと思いますが、学校運営に生かしていくということですし、授業でももちろん生かしていったということもあると思いますけれども、ほかに、例えばやってきてよかったなと思うことがもしありましたら教えてください。

山本教職員育成課長

参加した方たちは学校で子供たちに対して授業を行うだけではなくて、学校の中で教員の研修も行っています。さらに、例としては全校が集まったところでの全校道徳というようなことで行っている教員もおります。今回参加した教員たちは学校の中核を担う先生たちということで、学校に帰ってからも学校運営や子供の授業などにも生かしているというような報告を受けております。

森委員

ありがとうございます。手挙げ方式ということで、意欲のある先生方が行っていらっしゃるということだと思います。余り関心がなかったり、理解のない先生にその先生方から伝えているということだと思いますので、そこがどうやって広がっていくかということがポイントなのだろうと思いつつ聞きました。ありがとうございます。

鯉淵教育長

ほかにもございますか。

中村委員

当日、私も参加させていただきました。まず初めに、いろいろな困難の中で研修に御協力いただいている福島の富岡の方々に本当に感謝したいと思いました。また、当日は台風もあつたりして、2時間遅らせるというようなスケジュールだったのですが、渋滞にも巻き込まれずに、きちんとスケジュールどおりに研修を行うことができました。また、往復ともみっちりバスの中での研修がありまして、本当に内容の濃い1日だったと思います。

先ほどもお話がありましたが、私は2号車に参加させていただきました。お二人の校長先生から「富岡は負けん」というテーマで大震災のことですか、現在のこと、そしてまた未来に向けてということで、大変力強いお話をいただきました。4ページの左上の写真にございますけれども、私たちが2号車のバスを降りたときに、一瞬戸惑いました。工場の跡地とは聞いていましたが、余りにも無機質な感じで、ここが学校なのとちょっと戸惑いを感じたのですけれども、中に入ってみましたら、本当に子供たちは元気ですし、先生方も笑顔がいっぱいで、温かい雰囲気が流れていました。

その中で、校長先生から3月11日に震災があつて、わずか半年の9月にもう三春校を開校したということで、そのときに本当に想像もつかないぐらい困難な状況であつたのにと感じました。その中で、子供たちは今まで一緒に暮らしていた友達がどこに行ったのかも分からないというような状況の中で、非常に不安感を抱いているので、やはり子供たちのことを考えて、何とかしなければいけないということで、かなり離れたところではありましたが、この跡地を見つけて学校を再開したということです。本当に富岡の方々の子供たちを何とかしたいという気持ち、教育を大事にしたいという気持ちに心を打たれました。

テレビ電話を使って、遠隔授業で富岡校と三春校をつないで、楽しそうに宿泊体験学習の係決めとかをやっている様子を見て、いろいろな工夫をしてやっ

やるのだなと思いました。ここ何年かの中学生の総合的な学習の時間をまとめたものが掲示してあって、ぜひ見てほしいということで拝見したのですが、その総合のテーマが、「私たちは1日にどれくらい被ばくしているか」とか、「避難解除後の町はどのように変化したか」とか、あるいは「汚染物質の処理はどうなっているか」ということで、離れている私たちは8年たったという思いですけれども、まだまだ福島の子供たちはその真ただ中にいるのだなということをしみじみと感じました。

放射線教育についても、設備的にもいろいろありましたけれども、一番心に残ったのは、先ほどの御説明にもありましたが、今でも風評被害があるわけです。あの当時に、避難するために実家に帰ろうと思ったら、実家の方に福島ナンバーの車では来ないでくれと言われたという、そういう厳しい現実もあったということです。やはり状況をどう判断して行動するのかという力を子供たちにつけたい。それから、たくさんの情報があふれていますが、情報を正しく判断して、どう行動するのかという力をつけたいというお話がとても心に残りました。

今、森委員からもお話がございましたけれども、本当にこれだけ御協力いただいて、内容の濃い研修をしましたので、ぜひ行った方だけが、ああ、そうなのかなと思うだけではなく、これをどのように広げていくかということが大切なことだと思います。ですから、今、事例も皆さんにお知らせするというお話もございましたけれども、本当にそれが伝わっているのかどうか、こういうことをやっていますよというだけではなく、実際にそれが本当に生きているのかどうかということもきちんと把握していくことが大事なのではないかなと思いました。事務局の方も大変だったと思いますが、とてもいい研修でしたので、ぜひこれからも続けていっていただきたいと思いました。以上です。すみません、長くなりました。

鯉淵教育長

ほかによろしいでしょうか。

宮内委員

どんな事象でも、どんな出来事でも、私たちのディスカッションのテーマになると思います。本件は風評被害の問題で、日本のエネルギー政策を考え、また物事を批判的に考える癖をつけるためのサイエンティフィックな思考のトレーニングに役立ち、様々なテーマを含んでいる研修材料になり得ると思います。この研修というのは、知識の伝達ではなくて、クラス学習のようなもので、そこで違う意見の人々と接して何かを発見したり、思考が開始したり、新しいものが創造されるという場であるべきだろうと思います。ということで、今、中村さんがおっしゃったような雰囲気での研修が行われているということは、成功研修の一つなのだろうと思います。必ずしも研修は成功だけでなく、ただ知識の伝授で何をやっているか分からなくて帰ってくるということも結構あると思います。こういった実地研修は、テレビや書籍で知識を伝達されるということと異なり、生の体験をすることによって諸問題に気づくとか考えるきっかけになります。とても大事な試みだろうと思っております。

福島第一原発の問題が起きて、時間がたてばたつほど風化されていく問題ですが、私たちが真面目に考えなければいけない課題がいっぱい含まれております。ぜひ継続していただきたいと思います。ただ、その際にもっとテーマを広げていったらいいのではないかと思います。例えば、震災以前は横浜市の子供たちが使っていた電力の3分の1弱は実は原発に依存していました。私たちはそういう環境の中で生活していました。では、原発がなくなって、今は石炭、火力に大きく依存しているので、それでいいのかどうかとか、いろいろと考えるテーマは山ほどあります。私たちの問題として福島を考える、いいきっかけになるとおも

す。そういう観点でこの研修を発展させていくことを期待しております。

鯉淵教育長

ほかに何かありますか。

特に御質問がなければ、次の子どもアドベンチャー2019の実施について、所管課から御報告いたします。

渡邊生涯学習
担当部長

生涯学習担当部長の渡邊です。お手元の「子どもアドベンチャー2019の実施について」という資料を御覧ください。

まず、趣旨ですけれども、市内の小中学生を対象に、キャリア教育の視点から、働くことの体験や、様々な社会体験を通じた人との交流の場と機会を提供して、この体験を通じて、子供の夢を親子で語り合うといったような親と子の触れ合いのきっかけづくりを図ることを目的とした事業です。今年度も市役所をはじめ、公的機関、民間企業の協力を得て、103団体76の多様なプログラムを実施します。

開催日は、8月15日木曜日と16日金曜日、対象は市内在住・在学の小中学生で、開催場所は市内各所になります。詳細はチラシを御覧ください。なお、チラシにつきましては、昨年、教育委員の先生方からの御指摘を踏まえて、6ページから8ページに増やして、文字を大きくしております。

プログラム数、参加団体数、参加者数ですけれども、御覧のとおりになっておりまして、今年度については76プログラム103団体、そのうち民間企業が58という形での参加になっております。

下のほうに昨年度の様子が出ております。例えば、民間企業でしたら東京ガスのガス管細工ということで、これは非常に参加者数が多くて、688人、参加者数で2位のものでございました。右側に行きまして、子ども薬剤師体験セミナーということで、横浜薬科大学さんが提供したプログラムでございました。これは事前申し込みで1位のものでして、20.4倍の倍率がありました。左下は横浜高速鉄道みなとみらい駅のお仕事体験で、これも事前申し込み制で、2位で12.3倍のものでした。右下は、せやっこお仕事チャレンジということで、区役所をはじめ、瀬谷区の中の様々な事業所さんに参加していただいて、美容師体験、コンビニ体験などを行いました。これは参加者数が724人で、1位のものでございました。

裏に行きまして、特徴的なものを2つ御紹介しております。災害医療体験ということで、市大の看護学科で、大規模災害が起きたときの医療対応、災害に対する必要な備えについて学ぶというものでございました。右側に行きまして、結婚式場のもてなし体験といったものも行っております。

教育委員会の実施プログラムは4つございまして、三殿台考古館では縄文時代の火を起す体験や弓矢体験。それから、「税金を知ろう！」ということで、当時の指導企画課ですけれども、税金を使ってまちづくりをするパソコンゲーム、1億円の重さ体験といったものも行っております。横浜サイエンスフロンティア高校では、科学や数の謎に挑戦しようということで、プログラミングのワークショップなどを行っております。右側へ行きまして、中央図書館ですけれども、地下書庫などの裏側見学や書架整理といった体験などをしてもらいました。報告は以上でございます。

説明が終了しましたが、御質問等はございますか。

中村委員

質問ではなくてお願いですけれども、私も何回か参加させていただきましたが、とても全部ではないのですが、すいていそうなところにお邪魔しました。昨

年度お願いしたことの繰り返しになって申し訳ないのですが、1点目は、非常に入り口が分かりにくいところがありました。皆さんが働いている時間帯なので、こちらに行っているのか、あちらに行けばいいのか、迷うようなところがありました。それを分かりやすくしていただきたいということが一点です。

あと、ちょっと言いにくいのですが、場所と人によると思いますけれども、入っているのかな、悪いのかなというところと、こんにちとは気楽に声をかけてくださって、とても入り易い雰囲気のところがありました。特に人数が少ないところは入りにくいので、ほかのところはともかく、教育委員会の事務局が実施するところにおいてはせめて入り易い雰囲気を作っていたらと思います。以上です。

宮田生涯学習
文化財課長

生涯学習文化財課長の宮田です。今、委員のほうから御指摘いただきました案内表示につきましては、市役所内の部局はもちろんですが、できるだけ御協力いただける企業さんのほうにも案内表示の工夫ですとか、挨拶についても併せて御案内していきたいと思っています。

鯉渕教育長

ほかに何か御質問はございますか。

森委員

チラシの一番上に「横浜市教育委員会と企業・NPO・大学・公的機関などが連携して、多様なプログラムを実施します」と書いてございます。こうやっているいろいろな方々が連携して一つのことをやると、お互いを知れて、それ以降の連携にもつながっていくとなお良いと思います。質問といたしましては、これまでもこういうことをやってきて、実際の教育現場にも連携が広がっていったというようなケース、具体的な事例はございますか。

宮田生涯学習
文化財課長

具体的な例は、今の段階では承知しておりません。ただ、今、委員からいただいた視点も踏まえながら、例えば教育委員会内部でも参加いただいているところについてはそういう視点を持ってということは伝えてまいりたいと思っています。

森委員

このイベントをやるだけでもこれだけの関係者がいるので、とても大変なことだというのは容易に想像できます。それに加えてというのはなかなか大変なこととは思いますが、実際は子供たちが一回限りではなくて、その後の授業でもこの人たちの生の仕事の喜びであったり、大変さも含めて声を聞けたり、あとはさらに深掘りして、その仕事を知っていくということにもつながっていくと、いろいろな大人や仕事をイメージできるようにもなるでしょうし、そのために今何を勉強したいか、何を知りたいかという意欲にもつながっていくのではないかと思いますので、ぜひこの連携が日常でも生かされていくような取組になると良いと思いました。

宮田生涯学習
文化財課長

ありがとうございます。

鯉渕教育長

ほかにはよろしいでしょうか。

大場委員

今年の開催の要綱が出ているので、来年以降の期待で、今回は横浜サイエンスフロンティア高校がたしか中に入っています。できたら教育委員会所管の各高校

も一ひねりして、これに参加してもらったらどうかと思います。高校と、できたら大学で、市内の大学との連携事業はたしか政策局がやっていますし、いろいろな機会と接点があると思うので、横浜市立大学を初め、日頃子供たちが簡単に入れないような大学や高校との交流のチャンスがこういう授業を通じて広がったらいいなと思います。これは希望です。

宮田生涯学習
文化財課長

今年度は大学で4件ですけれども、今、委員の御指摘のとおり、市役所の中にそこをまとめているしかるべき部署がありますので、そこへの働きかけを行うなど、拡大するように努めてまいりたいと考えております。

鯉淵教育長

ほかに。

宮内委員

お願いであります。データサイエンスですとかA I 関連の企業に子供たちをもっと連れていく機会にしてください。日本は大変この分野で遅れをとっております。この分野に子供たちが親しみを感じるように、最先端の科学技術に接して、面白いと思わせることです。そういう体験をするには、このプログラムは絶好のものではないかと考えます。

渡邊生涯学習
担当部長

現時点では、民間企業でそういったA I 関係の企業はなかなか参加していない状況でございますが、委員がおっしゃったように、そのような企業にも働きかけをしていきたいと思っております。大学では横浜市立大学にデータサイエンス学部が設立されましたので、そのプログラムでやってくれないかというような形で調整も考えていきたいと思っております。

鯉淵教育長

ほかにはよろしいでしょうか。

それでは次に、議事日程に従いまして、審議案件に移ります。

まず、会議の非公開について、お諮りします。教委第11号議案「横浜市学校規模適正化等検討委員会委員の任命について」は、人事案件のため、非公開としてよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

鯉淵教育長

それでは、教委第11号議案は、非公開といたします。
審議に入る前に、事務局から報告をお願いします。

齊藤総務課長

6月21日に個人の方1名から、ハマ弁の当日注文の廃棄数等に関する請願書が提出されました。7月1日に1団体から、2020年度中学校使用教科書の採択についての要望書が提出されました。7月2日に個人の方1名から、横浜市中学校歴史・公民の教科書の選定についての陳情書が提出されました。これらの請願書等につきましては、事務局で対応を調整の上、教育委員会で審議が必要な場合は、次回以降にお諮りしたいと思います。委員の皆様は、内容の御確認をよろしくお願いいたします。

次回の教育委員会臨時会は、7月22日月曜日の午前10時から開催する予定です。また、次回の教育委員会定例会は、8月1日木曜日の午後1時30分から開催する予定です。この会の議題については現在調整中ですが、教科書採択につきましては、この日を予定しております。

なお、教科書採択を行う会議につきましては、例年傍聴を希望される方が多い

ことから、会議を傍聴いただける方を抽選させていただいております。今年度は関内ホールを受付会場といたしまして、抽選を行う予定です。会場に入れなかった傍聴希望者の皆様につきましては、受付会場の関内ホールで、映像中継によって審議の様子を御覧いただけるようにする予定です。以上です。

鯉渕教育長

皆様、よろしいでしょうか。次回の教育委員会臨時会は7月22日月曜日の午前10時から開催する予定です。また、次回の教育委員会定例会は8月1日木曜日の午後1時30分から開催する予定です。この会の議題については現在調整中ですが、教科書採択につきましては、この日を予定しております。別途、通知しますので御確認ください。

次に、非公開案件の審議に移ります。傍聴・報道機関の方は御退席願います。また、関係部長以外の方も退席してください。

<傍聴人及び関係者以外退出>

<非公開案件審議>

教委第11号議案「横浜市学校規模適正化等検討委員会委員の任命について」
(原案のとおり承認)

鯉渕教育長

本日の案件は以上です。これで、本日の教育委員会定例会を閉会といたします。

[閉会時刻：午前10時40分]